母校応援報告

駅伝全国大会応援報告

都大路 高校駅伝の応援に参加して

第34回男子全国高校駅伝が、県予選を勝ち抜いた47校の参加で、平成25年12月22日京都市の西京極陸上競技場を発着するコースで行われた。男子は7区間(42.195km)で行われ、最終7区の走者は4校のアンカーによるトラック勝負となり、激戦を制した山梨学院大付が2時間3分53秒で初優勝となった。

我母校・秋田工業は、予選の記録を40秒近く上回る2時間7分11秒の好タイムで力走した。結果は19位の成績であったが、先ずはこの健闘をたたえ大きな拍手をおくりたい。

同時に先発で開催された女子は、第25回記念大会となり58校の出場で行われた。女子は5区間(21.0975km)で、愛知県の豊川高校が優勝し、秋田・花輪高校は、男子と同じ順位の19位と健闘した。

さて、高校卒業後40数年経ってから東京秋工会に入会、その活動に参加し、この度佐々木東京秋工会幹事長に駅伝の応援を誘われ気軽に京都まで行くことになった。

京都を通り過ぎ、九州各県、山口、島根、広島、岡山と旅行する機会はあったが、京都に降り立ったのは高校の修学旅行以来で50数年振りであろう。

今回の行程は、前日の21日先ず新幹線・京都駅・烏丸口で12時の待ち合わせに組んでいた。

朝、自宅近くの千葉都市モノレールの始発に乗車し、途中ＪＲに乗換え東京駅に6時半過ぎには着いた。東京駅から一番早く発つ“のぞみ”の自由席に乗り込み悠然として久し振りの一人旅を楽しんでいた。ところが、途中の車掌の検札(切符拝見)で、この切符では“のぞみ”は「乗れないのですよ」と云われ、さあ・・次で下車しますか？と云うことに。丁寧に云っているようでも、何か非常に悪いことでもしたかのように、内心穏やかではなかった。

追加料金を支払うことで、そのまま乗車して行くことになったが、切符を購入しても、ろくに券面を確かめずに使用していることが、もしかしたらある世界(？？)に一部迷い込んでいるのかも知れないと感じた。

京都到着後、小雨模様の天気ではあったが清水寺を見物し、夕方5時半より、駅伝チームの激励会を選手の宿泊先の祇園「新門荘」で行なうことになっていたので、夕方ホテルから出向き選手諸君の激励会に参加した。ここで秋田工業高校同窓会関西支部のメンバーと合流した。

翌朝、食事後に宿泊ホテル前の東本願寺を散歩しながら必勝のお祈りをし、すっきりした気分で西京極陸上競技場に乗り込んだ。

競技場に到着後、辻村氏・小野氏の扮する“ナマハゲ”の着替えを手伝い、関西支部の皆さんの陣取るスタンドに落着いた。

10時20分からの女子スタートを観戦し、12時半からの男子のスタートまで競技場内外を見物、男子のスタートを待った。

いよいよスタート。第一走者がトラックを一周し場外に出るのを見送り、途中での応援に佐々木幹事長と共に折り返し地点の国際会館前に急いだ。折り返し地点の数十メートル手前で、関西支部のメンバーと一緒に秋田工業高校の小旗を振りながら声援をおくった。

国際会館前で全選手の通過を待ち、急いでスタート地点の西京極陸上競技場に戻った。

競技終了後は、競技場近くのレストラン“いっせん亭”を借り上げ、京都県人会を含めた関西支部の皆様と盛大に懇親会を行った。

駅伝選手の健闘をたたえ、そして同窓会関西支部の皆さんと交流を深め、高校時代に遠距離通学のため、スポーツには余り縁がないと考えていた私にとって、この応援を通して同窓生同志の何か強いつながりを感じたところである。

秋田工業高校の先生と生徒の皆さん、同窓会関西支部の皆さん、そして京都県人会の方々のこれからの益々のご健勝を祈念し、再び京都・都大路、あるいは大阪・花園に出向いてみたい。

そのためにも、日頃の自分の生活を規律正しくし、健康な日々をおくることが出来るように心がけることにしよう。

◆記事　生駒　茂　昭和33年土木科卒
東京秋工会 副幹事長